

2024 年度事業報告

社会福祉法人カメラア

2024 年度 事業報告

社会福祉法人カメラア

1. 2024 年度の総括

当法人は乳幼児や児童に係る事業を中心に据え、2025 年 3 月現在で児童心理治療施設 1 施設、幼保連携型認定こども園 1 施設、保育園 4 施設、小規模保育事業 4 施設、放課後児童健全育成事業 4 施設、共同生活援助グループホーム 1 施設の 15 事業所を運営。

2024 年度の新規事業等としては、小規模保育園「かめりあ第二保育園」において、大村市内の保育需要の高まりに対応し 345 歳児の受入れを行うための定員増を図り、小規模保育園から認可保育園「かめりあ富の原保育園（定員 50 名）」に変更し運用を開始した。開園当初は充足率 62%であったものの、大規模園とは異なるきめ細やかな保育の実践、支援を必要とする園児の積極的な受入れ等も行い、年度末に充足率 84%となり、安定した運用に繋がった。また、園児数の増加に伴い、特に年長児の保育活動において、活用できる部屋等に限りがあり十分な保育スペースの確保ができないため、隣接する「かめりあ保育園」を隣地に移設し、「かめりあ富の原保育園」の保育スペースを拡張する施設改修等を行った。改修及び移設に伴い、「かめりあこども園」で実施する子育て支援事業「COME かめ広場」を本体施設内で行うことになり、これまで以上に子育て支援事業の充実に繋げることができた。また、大村椿の森学園では多機能化・高機能化事業として「子どもと親の心理支援センター つばきの実」を開設した。開設直後から各市町からの個別相談だけでなく、児童養護施設等からのコンサルテーション事業に関する多数の相談もあり、地域における支援ニーズに合致する取り組みを展開できた。今後も「つばきの実」に対する地域の期待とニーズは更に高まると予想されるため、支援内容の充実と事業継続に向けた取り組みも進めたい。

事業運営の面では、児童心理治療施設では入所率 90%を超える一方で処遇困難な事案も多数あり、苦慮しながら対応する職員も多く、事業所として職員のゆとりある人員配置や育成には課題を残している。また、児童の処遇においては、不適切あるいは不十分な対応とならないような、専門的な知識や技術の習得に向けた研修体制の見直しと業務整理に着手した。保育施設においては、定員は充足しているものの、大崎市においては乳幼児数の減少に相まって、入園希望者数の減少も見受けられる。また、大村市内の保育需要を分析すると、立地や規模の兼ね合いから事業所毎の入園希望者数の偏りがあることが分かり、各事業所で特色を活かした魅力ある保育活動や保育サービスの提供、適切な情報発信が課題として浮き彫りとなった。併せて、今後の事業展開において、新たな保育施設の整備等に関する方針の整理を図った。長崎県内に限らず、保育施設における乳幼児数の減少、要支援児の保育ニーズ増加は事業所運営の大きな課題でもあるため、利用者に選ばれるような特色ある事業所作りを引き続き進めていきたい。こうした中、2023 年度に引き続き、あじさい保育園では自園の取り組みを発表した「2024 年度ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文」で奨励園に選ばれ、今後も実践を続けたい。人材確保については、実習生の積極的な受入れ、就職セミナー等の参加、在籍職員からの紹介による新規採用等に対する報奨制度を設ける等の取り組みを実施しているものの、

新卒者を含む新規採用については厳しい状況であった。また、年度内に産休育休取得者 15 名（前年 1 名減）、有休消化率が 83%（前年比 5%増）となっており、安心して休暇取得ができ安定した事業運営となるよう引き続き人材確保を進めたい。人材育成については、事業所内研修だけでなく、外部機関が実施する研修会への派遣、法人全体での職員研修など、知識や技術の向上だけでなく人材交流を通じた育成も図った。

施設設備等では、大村椿の森学園では児童用 ICT 機器の利用に向けたシステム導入、運動場の土入替、PC 入替、分教室の空調機器リニューアル及び防水工事を図り、児童の生活環境と職員の業務環境の整備を図った。かめりあこども園を含む保育施設では子育て支援室のリニューアル、大型テラス及び庇等の取り付け、保育室拡張を行った。特に、利用者から要望も多かった雨除けについては、庇等の設置により雨天時の送迎が安全で円滑にできるよう改善された。なお、あじさい保育園の屋上防水シート工事は自治体との継続協議となった。また、大村椿の森学園多目的施設及び職員駐車場に隣接する農道拡幅工事が予定されており、今後は用地等に関して大村市との協議が開始される見込みとなった。

財政面においては、事業活動収入は前年比 12.4%増、事業活動支出は前年比 16.8%増、事業活動収支差額は約 3,060 万円減となり、2 期連続の増収減益であった。事業活動収支差額は直近 2 年間で約 4,500 万円減となっている。なお、増収約 1 億 6,110 万円に対し、人件費増加分が約 1 億 8,360 万円であり、増収全額が人件費（前年比 20.3%増）となっている。人件費率は 74.3%となり、前年比 4.9%増（支出に占める人件費割合は 81.5%/前年比 2.4%増）となり、職種や地域を問わず増加傾向である。また、収入では人事院勧告及び各種の処遇改善加算等の増加分による増収となっている面が大きい。また、人件費だけでなくエネルギーコスト増、食材を含む物品、各種保守契約等の事業費及び事務費も支出増の傾向である。また、保育士の配置基準引き上げや働き方改革が求められるため、新規採用数を抑制することも難しく、かつ職員の賃上げの検討も引き続き必要なため、適切な財政管理とスピーディーな経営判断がより求められる。

2024 年	4 月	かめりあ富の原保育園運営開始 法人職員合同研修（虐待防止等）
	6 月	いちよう保育園 照明機器 LED 化
	9 月	大村椿の森学園 教育棟防水、空調機リニューアル工事 かめりあこども園 子育て支援室増設工事
	10 月	法人職員合同研修会（5 歳児担任交流研修） 子どもと親の心理支援センター つばきの実 事業開始
	12 月	子育て支援センターCOME かめ広場 移設
2025 年	1 月	かめりあこども園 多目的棟改修工事
	2 月	かめりあこども園 大型テラス設置工事 かめりあ保育園 移設
		かめりあ富の原保育園 改修工事

2. 事業所の概要

施設種別	施設名	所在	定員
児童心理治療施設	大村椿の森学園	大村市	55 名
幼保連携型認定こども園	かめりあこども園	大村市	190 名
保育園	あじさい保育園	市川市	100 名
	いちょう保育園	大崎市	90 名
	かめりあ天空の森保育園	大村市	105 名
	かめりあ富の原保育園	大村市	50 名
小規模保育事業	かめりあ保育園	大村市	12 名
	かめりあ三城保育園	大村市	14 名
	かめりあ三城第二保育園	大村市	12 名
	かめりあ上諏訪保育園	大村市	12 名
放課後児童健全育成事業	かめりあ児童クラブ A	大村市	40 名
	かめりあ児童クラブ B	大村市	40 名
	かめりあ児童クラブ C	大村市	40 名
	かめりあ三城児童クラブ	大村市	40 名
共同生活援助事業	グループホーム元気ハウス	大村市	11 名

3. 事業所の実績概要

3-1 大村椿の森学園

「子どもたちの笑顔を、地域の未来へつなぐ学園づくりをめざす」という学園基本理念のもとに、治療プログラムの充実、子どもの暮らしの整備等の重点項目を掲げて運営を行った。コロナ禍以降、入所児童数が低迷していたところから平均入所児童数を引き上げるため、入所受け入れは積極的に行い、入所児童数は7名、退所児童数は5名、平均入所児童数は37名となった。治療プログラムの充実という目標については、入所児童の治療課題や特性、育った環境等一人一人のテラーメイドで治療設計をできるよう、その主を担う心理士により柔軟性を育てていくことを意識し研修を実施したことで、心理士が周りの意見を聞いて受け入れる姿勢が強まった。また、子どもの生活環境の整備として、グラウンドの土の入れ替え、各ユニットへのタブレット設置、安全な ICT 利用が可能になるセキュリティシステムの導入を行った。不適切な対応等に関する防止に向けた取り組みとして、外部講師を招へいした研修や児童指導員の役割についての研修を行うだけでなく、職員面談の中から日ごろの悩みやストレス等の把握にも努めた。また、2024 年 10 月に「子どもと親への心理支援事業」が児童養護施設等多機能化高機能化モデル事業として採択を受け、県委託事業としての運用を開始した。県内に周知するための市町訪問、開設記念講演会を行う等様々な広報活動を行った。電話相談件数は5か月で321件、直接支援は16名の申し込み、5か月で約83件の心理支援を行った。

3-2 かめりあこども園

定員充足については、1号、2号、3号認定子ども共に定員を超える園児数となり安定した運営ができた。2023年度にやや減少していた1号認定子どもについても、105%の園児数と増加した。また、年度内の産休育休取得が7名と例年より多かった。また、育休復帰後、子は本園に入園する職員がほとんどで、家庭と仕事を両立して働きやすい環境の園を目指す中で、主幹を含む一部の職員等に負荷がかかりやすい状況になっており、今後の課題でもある。こうした職員体制に対する支援策として子育て支援員8名と無資格保育補助者2名と、配置基準以上に人員を増やし、全職員で一体となり運営にあたった。重点取り組みでは、保護者との関係づくりにおいては個別相談の増加等だけでなく、保護者アンケートの結果からも一定の成果が確認できた。一方で主体性を大切にしたい教育保育の実施、SDGsへの取り組みについては、少しずつ職員の意識変化はみられるものの、十分に浸透できるほどの実践には至らなかった。子育て支援室（COME かめ広場）では、プログラムの参加予約をオンライン化、午後からの利用者を積極的に受け入れたことで、利用者数はのべ1,538組3,340名で過去最大の利用者数となった。施設整備として、子育て支援室の増築移設、園児保護者通路の大型雨どい設置、園庭との間のフェンス設置など、園児保護者共により安全に快適に過ごすため複数の工事を実施した。

3-3 あじさい保育園

園内研修の充実については、昨年から引き続き「科学する心を育てる」をテーマに取り組んだ。職員の大半が「科学」という言葉に捉われていたことから、事前に意見交換を行い、「子どもの気づきに気づく」を目的として取り組んだ。また、持続的な教育として、コンポストの継続や園庭整備等に取り組み、子どもの気づきや発見に気づき、子どもと一緒に感じ、面白い、不思議を共感し、子どもの遊びの展開や興味関心を広げることに繋がっていった。発達に応じた支援、環境整備と受け入れ方法の工夫については、要支援児に対し職員の加配を行い、外部の専門職とも連携しながら、多角的な支援を通じて発達を促した。また、子どもの健全な発達と保護者支援では、配慮の必要な子どもや子育てに不安のある保護者と積極的に面談を行い、相談や助言だけでなく、必要に応じて専門機関の受診を促したり、児童発達支援施設への同行や施設と連携を図った。地域の子育て支援・地域貢献と連携の強化では、定期的な子育て支援の実施、公園等での交流、地域自治体と定期的に交流し、夏祭りへの参加や手伝いを実施した。また、夏祭りには卒園児を招き、卒園後の成長を知るよい機会となると共に、保護者参加もあり、地域との繋がりにもなった。

運営及び経営面では、早めの定員充足に向け積極的な受け入れを進め、年度前半で予定数に近づいたが後半には転居等も相次ぎ、総数は予定を下回る結果となった。また、定員充足の課題だけでなく、保育の質や働き方改革と経営バランスを見極めることも今後の課題である。

また、ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文募集に応募したところ、奨励園に選ばれ、今後園の特色の1つとして実践を続けたい。

3-4 いちよう保育園

大崎市では、2015年以降出生数が減少し現在までに4割減、2022年には保育施設における待機児

童数が0名となっており、供給多過の状況が続いていることから、「選ばれる園」の取り組みを実施してきた。園児に対する取り組みでは、園児の発見や興味に対し、友だちや保育者を含めて「とことんやってみる」ことを目指し、園児のやりたい気持ちに対し「どうすれば出来るのか？」を考え、活動に組み入れた結果、保育者が思っていた以上に園児の気持ちを叶えられることができ、園児の心身共に一人ひとりの欲求が満たされ、豊かさを感じることに繋がった。同時に、これまでは保育者が主導となり進めてきたことを実感する機会ともなった。保護者に対する支援としては、保育活動等の写真掲示等だけでなく、試食会やレシピ公開等を実施し、送迎の際に保護者・園児・保育者での会話に繋がるような機会の確保に努めた。写真だけでは伝わりにくい園児の気持ちや、保育者の意図に対し会話が盛り上がり、家庭での様子も引き出すことが出来た。今後は、掲示に留まらず、Instagram等のSNS媒体を活用し、よりスピード感のある発信を実施していきたい。事業運営に関わる点としては、大崎市私立保育園・こども園園長連絡協議会主催の「保育のJobフェア in おおさき」（合同就職説明会）に担当として携わり、結果として新卒者の採用に繋がった。しかし、近年、保育士不足が深刻化している中で、採用した保育士に対し、働きやすい環境整備や職員育成を今後の課題として取り組みたい。

3-5 かめりあ天空の森保育園

主体的保育の実践と環境の工夫では、クラス単位での活動だけではなく、縦割りでの活動も定期的に行い、子ども達と話し合いながら保育を展開した。朝、夕の時間や園外保育の際には縦割りペアでの活動も多く取り入れ、子ども同士力を合わせる場面も多かった。また、例年開催している運動会を「てんくうフェスティバル」と改名し、主体性を重んじセレクト競技を取り入れ、年齢別の発達の違いや、要支援児も一緒に取り組める活動や支援児の保護者の立場からの行事の在り方にも配慮した。栽培活動を通した食育活動の実践では芋ほり体験、園庭の果樹収穫体験、自分達で収穫した梅を使った保護者参加型の参観など多様な食育活動の実践を図った。近隣幼保小中との交流では幼保小架け橋期のカリキュラムの一環として、小学校見学やカリキュラム編成に向けての連絡会への参加、他園や小学校との連携、意見交換会を開催した。5歳児の保育では、小学校を意識した保育のあり方や生活科と同様の「かがくタイム」の体験授業を導入した。障害児保育の実践として、11名の要支援児を受け入れ、職員間で要支援児を含む保育の適切な対応の仕方について都度検討会を行い、個々の違いや方法についても共有した。併せて、支援児も一緒に参加出来る行事の在り方について検討し実践した。その他、食育活動や給食レシピの動画配信、給食参加や保護者参加型の食育プログラムを強化した。その一方、食物アレルギーの対応に関しアナフィラキシーショックで救急搬送をするアクシデントも発生し、課題の整理と業務工程の見直しも行った。

3-6 かめりあ富の原保育園

4月に345歳児の受入れを開始し、定員50名の認可保育園として開園。園児数31名でスタートし年度末には42名（入所率68.7%）となった。一方で少人数の保育実践を行えるため、一人一人に向き合い、子どもにとって安心して園生活を送ることができた。また、建物の構造上、保育室と調理室が近いこともあり食事の香りが園舎内に漂い子ども達の食の興味に繋がりと、日常的な保育活動の中で食育の要素を取り入れた。専門性向上や障害児保育の強化を図るため、専門的機関に職員

を派遣し実践的な学びの場を設定、外部講師を招へいしての実践的な研修なども行った。施設面では、同施設内に小規模保育園が隣接し同年齢の交流が図りやすい半面、園児数の増加と年齢構成に伴い保育室の狭さが顕著となった。併せて送迎時の出入り口及び駐車場での混雑など、認可保育園として運用したことによる課題も生じており、隣接する小規模保育園の移設を図り、保育室拡張に向けた改修工事を行った。

3-7 かめりあ保育園

4月には「かめりあ富の原保育園」開園に伴い、保育室配置が変更になり、保育室環境の見直し、園児13名からスタートした。2月には、法人内の施設強化の一環として隣地に施設移転。移設当初は新たな保育環境整備の課題もあったが、大きな混乱なく、日常の保育活動を進めることができた。また、常勤保育士1名、非常勤保育士3名採用し安定した職員配置をできたことで、ノンコンタクトタイムの実施や積極的に休息できるようになり、リフレッシュと事務的な作業効率の向上につながった。また、非常勤職員が多く在籍するため、職員間の情報共有を確実に行えるよう、伝言ノートを取り入れた。併せて、積極的な外部研修への参加を図り、園内研修では職員間の共通理解を深める機会を増やし、保育の質の向上に努めた。保育面では大村市「花いっぱい運動」に参加し、花壇の世話を通して花育活動を盛んに行った。農業体験では近隣の畑で「大根の収穫」を体験させてもらうことで地域交流や食育活動にも繋がった。

3-8 かめりあ三城保育園

4月当初は、1・2歳児を多めに受け入れ15名でスタートした。その後、満3歳になり幼稚園への転出が増加したこと、0歳児を受け入れた。定員数が少ないことから、送迎時などに保護者と連携を取りやすく、園児の園や家庭での様子をきめ細やかに共有することができた。そのため、離乳食から普通食への移行やトイレトレーニングなどの、園での基本的な生活習慣は個別での対応ができた。園児の情報については職員間で情報を共有し、全職員が同じ内容の保育を提供する事で、丁寧な保育が実践できた。職員数は、職員の産休取得や弾力運用による園児の受入れ増を予測して増員し、十分に配置できている。常勤・非常勤職員共に、休憩時間やノンコンタクトタイムの確保も定着している。感染症に関しては、コロナ禍に比べると消毒の回数を減らしたが、園児が安全で健康的に過ごすことが出来るように、感染症が流行した場合は掲示での周知、必要に応じて別室での保育や家庭保育の協力要請を図り対応した。職員の資質向上に関しては、園内研修に加え、外部講師による研修を行うことで多様な学びができた。感染症や不適切な保育に関する情報収集と職員間での共有、安全管理の一環として園外保育計画の見直しを図った。

3-9 かめりあ三城第二保育園

年度当初から園児数は定員100%を超え、安定した運営ができた。職員向上については園内研修と外部講師を招へいしての研修を組み合わせることで、緊張感と新たな知識の習得につながり、学んだ内容を意識した保育の実践が増えた。安全管理については、安全管理講習や防犯の講習等を受講、不適切保育に関して、再度子どもへの関わり(子どもの人権・人格の尊重)について職員間で確認しあい、非常勤職員も含め質の向上を図った。また、法人内の他施設の行事に参加、法人外の保

育園の公開保育や小規模保育施設を訪問し、保育室の環境構成や地域による保育サービスの違いを学び、自園の環境の在り方を再検討した。コスト削減を含むペーパーレス化を意識した事務処理については、基本的な保護者への配布物のデータ配信、各種記録等のデータ化を進めたことでコスト削減（消耗品、時間等）につながった。また、余裕のある職員配置により、有休取得率 90%以上確保でき、子育て世代の職員が育児と仕事を両立しやすい環境を整えることができた。

3-10 かめりあ上諏訪保育園

4 月は 1・2 歳児で定員 12 名を満了しスタートする。6 月より 0 歳児の入園希望があり 8 月には 15 名が在籍し地域のニーズに応え弾力運用も行った。休憩室、休憩時間の充実を目指したが、常勤職員は休憩時間とデスクワークが曖昧になることもあった。人材育成の面では、園内研修に限らず、外部講師を招へい、外部研修への参加、他の保育事業所の視察等を通じ専門性の向上を図った。また、研修を学びの場とするだけでなく、園内で他職員と共有し、速やかに保育実践に繋げていった。保育に活用し園児が過ごしやすい環境を整えることができた。また、ICT 機器の導入には至らなかったが、ペーパーレス化や保育動画の定期的な配信は定着している。

3-11 かめりあ児童クラブ ABC、かめりあ三城児童クラブ

アフターコロナとして学校行事等も通常通りに行われ、児童クラブの活動等についても制限はなく富の原地区と三城地区での合同活動となるレクリエーションを数年ぶりに企画運営した。児童数については、かめりあ児童クラブ ABC で新 1 年生 37 名が入所しておりこの数年で微増、途中退所児童については例年に比べて少なく、特に大きな児童数の増減は見られなかった。一方でかめりあ三城児童クラブでは定員を超える入所希望がありキャンセル待ちも発生したが、同時に年度内退所の割合もやや高い状況であった。児童の健全育成のため職員の資質向上を目指し、法人内外の 11 の研修に延べ 56 名（児童クラブ 4 施設）の職員が参加した。職員配置については、自治体から放課後児童クラブの開所時間に関する考え方や、加算に係わる職員配置などについて見直しや修正等があり、随時基準に合わせて対応を進めた。全体的な取り組みとしては、『子どもが主体的に活躍できる場』をテーマに、誕生会やお楽しみ会、出し物発表など、児童の意見を尊重し行事を通して主体的に活躍できる場を設定することができた。夏祭りやクリスマス会などでは、児童自ら活動目的を設定し、実施までの過程を楽しみながら仲間と協力する場面も多くみられた。また、集団生活の向上を目的とした「グループワークゲーム」をイベントごとに行い、遊びの中でリーダーが生まれ、異年齢による集団の良さを引き出すことができたのは、今後に繋がる良い機会となった。

3-12 グループホーム元気ハウス

2024 年度中は定員 11 名に対し、常時 10 名の利用があった。今年度は 1 名の体験入所者がいたのだが集団生活には適応できないと判断し、入所には繋がらなかった。利用者ニーズへの対応としては、様々な年代の利用者のニーズを聞き入れながら安定した生活が送れるように支援した。将来的には就労を目指している入所者については関係機関とも連携し、継続して就労継続支援事業所 B 型に通所することができている。また、現在の入所者の平均年齢は 50 歳であるが実際は 50 歳台の利用者はおらず、最年少は 23 歳、最高齢は 76 歳となっており年齢層が 2 極化している。若年

層では 1 人暮らしやアパート暮らしを検討している入所者もあり、高齢者では身体的衰えから高齢者施設への転居を検討する時期にきている入所者もいるため、利用者のニーズ把握をより丁寧に進めていきたい。併せて、対人関係で不安定になりやすい入所者に対しては、その入所者にあった生活スタイルを提案したことで精神症状が安定し、不調を訴えることが少なくなった。一方で、2024 年度は入院件数が例年に比べ多く、集団生活という環境の中で入所者の症状悪化や不穏な時の様子は他入所者へも影響したものと考えられる。大きな精神的不調から長期入院になる入所者は少ないことから、入院に繋がる前に施設でできる精神症状の安定化に向けた継続的な支援を充実させたい。

4. 法人本部、全事業所に係る実績

4-1 理事会、評議員会

法人内の意思決定を諮るため、理事会を 7 回開催、評議員会を 1 回開催し、法人としての組織統制と牽制を図った。また、監事による事業所訪問を実施し運営状況の確認等を行った。

- ・役員数 評議員 7 名、監事 2 名、理事 6 名

- ・理事会 7 回開催

2024 年 5 月 30 日、6 月 19 日、8 月 23 日、10 月 23 日、12 月 19 日

2025 年 2 月 20 日、3 月 26 日

- ・評議員会 1 回開催

2024 年 6 月 19 日

4-2 人材育成と人材確保

人材育成においては、職員向けの虐待防止等に係る研修（2024 年 4 月 9 日、12 日）及び保育部門の 5 歳児担任向け研修交流会（2024 年 10 月 30 日～11 月 1 日）を法人全体で実施した。また、施設長間で実施する「管理運営会議」を継続し、危機管理や財務管理も含めた報告の機会を設け、施設長の研鑽を図った。「管理運営会議」では処遇困難な家庭や子どもの対応、児童福祉に関する社会的動向等、幅広い事案を取り扱うことで、法人としての共通理解を図る取り組みも進めた。

人材確保においては、ハローワークへの求人活動だけでなく、インターネット求人サイトの活用、合同就職相談会にも出展、養成校からの実習生の積極的な受入れ等、多様な採用活動を進めたが、応募は少なく、目標とする人員配置に達するほどの採用数には至らなかった。しかし、相談会等を通じて採用に繋がった事例、新たに創設した職員紹介報奨制度を活用した採用事例も実際にあるため、地道な採用活動は継続したい。

4-3 情報公開

ホームページだけでなく、SNS を活用した情報発信にも積極的な取り組みを図った。保育事業所では保育活動の様子を保護者等に案内するための配信（YouTube、Instagram 等）を行った。こうした取り組みは利用者アンケートで高い評価を得ており、さらに Instagram の活用にも力を入れ、利

用者や就職希望者等に事業所の魅力が届くような発信を進めたい。

4-4 その他

ICTを活用した人事労務管理は、試験導入から本格導入への拡大検討をしていたが、運用上の課題が残る本格導入に至らず、次年度以降も引き続き取り組む。建替を含む大規模改修等については、経年劣化等による修繕対応は適宜行いながら、一部施設では建替に関し協議を開始した。また、苦情対策は要綱に従い対応し、苦情解決第三者委員の活用までには至らなかった。

【寄付者等】

大村市、西日本新聞民生事業団、九州ろうきん、マルキン食品、有限会社尾上運送 他

【指導監査】

2024年7月23日	かめりあ天空の森保育園
2024年7月24日	かめりあこども園
2024年7月25日	かめりあ富の原保育園
2024年8月6日	あじさい保育園
2024年8月22日	大村椿の森学園
2024年9月5日	かめりあ上諏訪保育園
2024年10月17日	かめりあ三城保育園、かめりあ三城第二保育園

※いちょう保育園、かめりあ保育園は書類監査のみ

5. 地域貢献への取り組み

乳幼児や児童に係る地域のニーズ、社会問題に幅広く貢献できるような取り組みを実施した。2024年度は大村椿の森学園の多機能化・高機能化事業として「子どもと親の心理支援センター つばきの実」を開設した。また、地域貢献活動として「フードバンクシステムによる、ひとり親家庭生活困窮世帯への「宅（食）所」「健康」「相談」総合支援に関する運営」に参画した。

5-1 多機能化・高機能化事業「子どもと親の心理支援センター つばきの実」

- ・電話相談（メール含）321件、施設見学74名
- ・親子への直接の心理支援 延べ154名（83回）
 - ① 子どもの属性
年齢 平均6.9歳（3歳～10歳）、性別 男：女＝10：7
 - ② 養育者の属性＊主たる参加養育者のみ記載
年齢 平均 37.5歳（28歳～45歳）、性別 男：女＝0：16
- ・CARE 専門家向けワークショップ 延べ78名
- ・専門家向け研修会（講演会）

日時 2025 年 3 月 22 日（土） ミライ on 県立図書館（長崎県大村市）

講師 日本 PCIT 研修センター所長 加茂登志子氏

参加者数 98 名

- ・ 保育所等の訪問支援 利用した支援者数 延べ 50 名
- ・ TCIT を活用した継続的コンサルテーション 全 12 回（1 施設）

5-2 地域の子育て、児童福祉等に係る連携

- ・ 地域の子育て、児童福祉等に係る会議への参加
大村市要保護児童対策地域協議会、大村市相談業務担当者会、市川市幼児教育審議会
市川市子ども・子育て支援協会、大崎市子ども・子育て会議、つなぐ BANK 他
- ・ 子育て支援拠点事業（COME かめ広場の実施）
利用者 1,583 組（延べ 3,440 名）
オンラインを活用した予約プログラムの運用

5-3 地域の子育て、児童福祉の人材育成に係る取組み

- ・ 教職員等の施設見学及び児童虐待等に係る講義
2024 年度大村地区初任者研修（特別支援学校） 他
- ・ 外部機関の研修会等における講師派遣
大村市教育・保育力向上研修会、長崎市親子支援ネットワーク地域協議会実務者会議
大村市子育て支援員研修講座 他
- ・ 各種実習生の受入 （16 校／延べ 46 名）
長崎大学、長崎純心大学、長崎国際大学、長崎県立大学、東京家政大学、聖徳大学
目白大学、和洋大学、長崎短期大学、純真短期大学、長崎医療こども専門学校
仙台こども専門学校、仙台幼児保育専門学校、東京こども専門学校、福岡こども専門学校
麻生医療福祉保育専門学校、シルバー人材センター（保育支援員研修）
- ・ 職場体験、ボランティア、交流等の受入
大村市立郡中学校、大村市立桜が原中学校、大村市立西大村中学校、大村市立富の原小学校、
長崎県立大村高等学校、大崎市立古川中学校、市川市立高谷中学校、市川市立行徳小学校
- ・ 地域との交流
いちようマルシェ（子育て支援）の実施、自治会との交流
- ・ 施設見学等
長崎県こども家庭局、東彼・北松浦郡民生委員児童委員協議会、マリア園他

5-4 寄稿、発表

- ・ソニー幼児教育支援プログラム 2024 年度 保育実践論文
「毎日の「気付きに気付くこと」から始まった！科学する心を見つける毎日」
(あじさい保育園 研究代表・執筆者 塚田洋子)

6. 法人の沿革

- | | |
|-------------|--|
| 2002 年 5 月 | ・ 社会福祉法人カメラア設立 |
| 2003 年 4 月 | ・ 情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園開設 |
| 2006 年 5 月 | ・ 大村椿の森学園 多目的施設竣工 |
| 2008 年 3 月 | ・ かめりあ児童クラブ開設 |
| 2008 年 4 月 | ・ 大村椿の森学園 定員変更（入所定員を 35 名から 40 名へ変更）
・ 厚生労働省 2008 年度障害者保健福祉推進事業 |
| 2009 年 4 月 | ・ 大村市立竹松幼稚園、竹松保育園の民営化に伴う事業譲渡により
かめりあこども園の事業開始 |
| 2010 年 3 月 | ・ 大村椿の森学園 内部改修工事 |
| 2011 年 4 月 | ・ いちよう保育園開設
・ あじさい保育園開設 |
| 2014 年 7 月 | ・ かめりあこども園新築移転 |
| 2015 年 9 月 | ・ 小規模保育園 かめりあ保育園開設 |
| 2016 年 4 月 | ・ 小規模保育園 かめりあ三城保育園開設 |
| 2016 年 12 月 | ・ 大村椿の森学園 グラウンド竣工 |
| 2017 年 4 月 | ・ 児童福祉法改正に伴い、大村椿の森学園の施設種別名称変更
児童心理治療施設 大村椿の森学園
・ かめりあ富の原児童クラブ開設
・ かめりあ三城児童クラブ開設 |
| 2018 年 1 月 | ・ 小規模保育園 かめりあ三城第二保育園開設 |
| 2018 年 3 月 | ・ かめりあ多目的棟ビル竣工
・ 大村椿の森学園 学習棟整備 |
| 2018 年 4 月 | ・ かめりあ児童クラブをかめりあ原口児童クラブへ名称変更
・ かめりあ富の原児童クラブをかめりあ児童クラブへ名称変更
・ かめりあ児童クラブの新築移転 |

	・ かめりあ児童クラブ B、C 開設 ・ 大村椿の森学園の教育体系が県立大村特別支援学校西大村分教室に移管
2018 年 11 月	・ 共同生活援助事業 グループホーム元気ハウス開設
2019 年 1 月	・ 小規模保育園 かめりあ三城第三保育園開設
2019 年 3 月	・ かめりあこども園 運動場拡張整備
2019 年 12 月	・ かめりあ天空の森保育園 職員駐車場整備
2020 年 3 月	・ かめりあ天空の森保育園 竣工
2020 年 4 月	・ かめりあ天空の森保育園 開設
2020 年 8 月	・ かめりあ原口児童クラブ 事業廃止
2021 年 3 月	・ あじさい保育園 一時保育事業廃止
2021 年 4 月	・ 小規模保育園 かめりあ上諏訪保育園開設 ・ 小規模保育園 かめりあ第二保育園開設 ・ かめりあ三城第三保育園をかめりあ三城第二保育園へ名称変更
2021 年 9 月	・ かめりあ天空の森保育園 園庭整備
2022 年 6 月	・ 大村椿の森学園 空調機器リニューアル
2023 年 10 月	・ 大村椿の森学園 多目的施設改修 ・ かめりあこども園他 照明機器 LED 化
2023 年 11 月	・ かめりあこども園 事務所改修、相談室設置工事
2024 年 2 月	・ かめりあ第二保育園 改修工事
2024 年 3 月	・ 大村椿の森学園 浴室リニューアル
2024 年 4 月	・ かめりあ富の原保育園開設
2024 年 6 月	・ いちよう保育園 照明機器 LED 化
2024 年 9 月	・ 大村椿の森学園 教育棟防水、空調機リニューアル工事 ・ かめりあこども園 子育て支援室増設工事
2024 年 10 月	・ 子どもと親の心理支援センター つばきの実 事業開始
2025 年 1 月	・ かめりあこども園 多目的棟改修工事
2025 年 2 月	・ かめりあこども園 大型テラス設置工事 ・ かめりあ保育園 移設 ・ かめりあ富の原保育園 改修工事

以上